



概要

栗山町は、過疎化や少子高齢化の進展により公共交通利用者は減少傾向にあり、民間路線バス撤退後に導入した町営バスの経営も悪化しており、その改善が急務となっている。このため、町民の利便性の向上と町営バス事業の改善を図るため、市街地における町営バスの運行効率化、農村部における町営バスのデマンド化、バスによる農産物等の輸送等の調査検討を実施する。

地域公共交通の現況

- ・JR室蘭本線(栗山駅)
- ・北海道中央バス(株)(近郊3路線)
- ・夕張鉄道(株)(近郊2路線)
- ・町営バス(6路線)
- ・スクールバス(4路線)・保育バス(1路線)

地域公共交通の課題

- ・過疎化、少子高齢化により公共交通の利用者が減少傾向
- ・町営バス事業の経営の改善
- ・高齢者等の移手段の確保

調査の主な内容

- ・現状交通実態調査
- ・利用者ニーズ把握調査(アンケート調査)
- ・市街地における町営バスの運行効率化の方策の検討
- ・農村部におけるデマンドバスの導入検討

策定する地域公共交通総合連携計画の構想(予定)

- ・市街地における町営バスの運行効率化の検討
- ・農村部におけるデマンドバスの導入の検討
- ・農村部におけるバスによる農産物等の輸送の検討



栗山町地域公共交通活性化協議会 調査事業の取組状況

主な調査の実施内容

協議会開催状況

4回開催

分科会等開催状況

専門部会5回開催

左記開催状況は
H21.1.30現在

現状交通実態調査

・各種統計資料等による人口、世帯、交通概要等調査及びH19のバス利用状況等調査を基に町営バス利用実態の再整理を実施。

利用者ニーズ把握調査(アンケート調査)

・郊外居住者1,900世帯に対し、バス利用実態・デマンドバスへの意見等把握を目的に町民アンケートを実施。(H20.10~12月)

市街地における町営バスの運行効率化の方策の検討

・専門部会において既存路線バスの効率的運行、民間バスとの連携検討のための実態調査、住民・医療機関・商店街等との連携についての調査検討を実施。

農村部におけるデマンドバスの導入検討

・専門部会においてデマンドバス導入についての運行形態を検討し、H21年度事業で高齢化が進む2地区で実証運行の実施を計画。

その他の調査等

・連携計画骨子等を基に、バス利用者の多い7地区で地域懇談会を開催し、デマンド運行等実施予定事業についての意見を聴取。

予定している連携計画の内容

市街地における町営バスの運行効率化(実施主体:栗山町、実施時期:H21~)

・町営バスの一部路線を見直し、通院・買物に便利なバス停を設置のうえ、市街地におけるコミュニティバスの実証運行を実施。

農村部におけるデマンドバスの導入(実施主体:栗山町・地域自治組織、実施時期:H21~)

・農村地区の町営バス路線において、小型バスを導入のうえ、日中を中心にデマンドバスの実証運行を実施。

路線バスの利用促進・利便性向上(実施主体:栗山町・民間バス事業者・経済団体・医療機関、実施時期:H21~22)

・民間バスや他の交通機関との接続改善、既存施設を活用した多目的利用が可能なバス待合所施設を整備。

少量貨物輸送の検討(実施主体:栗山町・経済団体、実施時期:H22を目途に検討)

・町営バスの多目的利用を目的に、農村部における農産物等の輸送を検討。

自己評価のポイント

既存調査結果の活用、アンケート調査、地域懇談会等により必要な調査を行うとともに、法定協議会において専門部会も開催しながら合意形成を図っている。

二次評価のポイント

自己評価のとおり。